



べにまる

「輝きを未来に」

- 自ら学ぶ子 ○思いやりのある子
- 最後までやりぬく子 ○体をきたえる子

令和3年9月30日

発行責任者 松原 康雄

パラリンピックから気づかされること

校長 松原 康雄

北海道に緊急事態宣言が発令されてからおよそ1ヶ月、ようやく新規感染者数も落ち着き、少し安堵できる状態になってきました。学校でも感染拡大を防止するため土曜参観日を取りやめたり修学旅行や宿泊学習を延期したりするなど感染状況の推移をみてきましたが、ようやく感染対策をしっかりと行った上で教育活動に取り組むことができそうです。報道では、再び感染の山がやってくるとも報じられていますが、少しでも小さな山になることを願うばかりです。

さて、一ヶ月近く前のことになりますが、オリンピックに引き続きパラリンピックが東京で開催されテレビでも多くの競技が放送されました。障がいをもった選手が自分のもつ機能を最大限に活かしてスポーツに取り組む、その姿に私もテレビを観ながら自然と声援を送り熱中していました。恥ずかしながら今大会で、様々な競技があること、障がいの程度によって区分わけがされていること、そして世界中で多くの選手が競い合っていることを知りました。すでに誰もが普通にスポーツを楽しむ時代になっており、健常者と障がいをもった人との間に垣根は無いんだ、という意識を強く持ちました。日本でパラリンピックが開催されたことで、『共生』に対する意識が高まったような気がします。誰もが自然と振る舞うことができる、障がいの有無にかかわらず誰もが住みよい毎日を送ることができる、そのような社会にしていきたいですね。

最後になりましたが、先日、留寿都高校の皆さんが1年生に枝豆やとうもろこしをたくさん届けて下さいました。春に高校生と一緒に種まきをしてから、高校生にお任せの状態となっていました。立派に育った様子に子どもたちも大喜びでした。ここまで育てるのに多くの手間がかかったことだと思います。お世話をして頂いた留寿都高校の皆さんに大変感謝をしています。ありがとうございました。



秋の遠足

昨年は、コロナ禍で全校児童でふるさと公園に行きましたが、今年度は従来通り、低中
高学年で分かれて遠足に行きました。高学年は真狩河川公園までの9km弱を歩き（復路
はスクールバス利用）楽しい時間を過ごしました。



お世話になりました

今まで、子供達の学習サポートをして下さっていた、宮崎先生が9月
いっぱいまで本校をさり、10月から黒松内小学校に勤務することになりま
した。休み時間、子供達と鬼ごっこをして遊んでくれたり、学習の支援で
様々な学年に入っていました。ありがとうございました。



よろしくお願ひします

昨年度も10月から学習支援でお世話になった、久保田亜沙里先生が
今年度も支援に入っています。主に3・5年生に入る予定です。

